

名鉄資料館20年史

1994(H6).6.8 ~ 2014(H26).6.8



↑ 第1展示室 ↑



↑ 鉄道模型ジオラマ

← 第2展示室

名鉄資料館

資料館 20 年史発刊にあたり

名鉄創業 100 周年記念事業で開設された「名鉄資料館」は、今年 6 月 8 日に開館 20 周年を迎えました。20 年間のあゆみを振り返ると、順風満帆とは言い難い面はありましたが、貴重な資料の維持管理という重要な役割を地道に担いながら、20 年という節目を迎えることができました。

これも資料館開設とその維持管理に取り組まれた諸先輩方の努力の賜物だと感謝しております。また、貴重な資料を寄贈していただいた方々にも厚く御礼申し上げます。

20 周年記念で「名鉄資料館 20 年史」を作成いたしました。資料館開設実行委員会の委員長であった林 哲郎氏(当時・副社長)と、委員長代行の山下 武氏(当時・常務取締役)から特別寄稿文を頂戴し、また、資料館の準備から運営に直接携われた方々にも寄稿していただき、資料館 20 年のあゆみをまとめました。

名鉄資料館には、資料館設立の趣旨(下記)が飾ってあります。この趣旨に沿って、今後は保存してある貴重な資料の有効活用を図っていきたいと考えております。どうか皆様の温かいご支援を今後もよろしく願いいたします。

平成 26 年 6 月 8 日

松永直幸・田中義人

名鉄資料館は、平成 6 年 6 月、名古屋鉄道創業 100 周年を記念して開館しました。当社の創業は、明治 27 年の愛知馬車鉄道の設立に遡ります。その後、間もなく名古屋電気鉄道と社名を改め、明治 31 年には、我が国二番目の電気鉄道として笹島～県庁前間の営業を開始いたしました。

また、この地方では、明治から大正にかけて、当社の前身となった数多くの私鉄が相次いで開業しましたが、その後、太平洋戦争をはさんで当社との合併、統合がすすみ、今日の会社の基盤が築られました。戦後は、戦災の荒廃の中から立ち上がり、豊橋～新名古屋～新岐阜間の直通運転実現をはじめ、車両の高性能化、駅舎、線路等、鉄道施設の基盤強化に力を注いでまいりました。

さらに、昭和 30 年代半ば頃からは、パノラマカーの投入をはじめ、新線の建設、名古屋市地下鉄との相互直通運転を行うなど、輸送力の増強とサービスの向上に努め、飛躍的な伸展を遂げ、今日では、鉄道・バス事業を通して、この地方の交通の重要な担い手として大きな役割を果たしております。

名鉄資料館では、こうした幾多の混乱期をのりこえ今日に至るまでの当社の歴史を物語る数々の貴重な資料を保存、展示し、先人の足跡を偲ぶよすがとすると共に、新しい発想を生み出す糧にしたいと考えております。

〒509-0208 岐阜県可児市川合北 2-158

名鉄資料館

Tel : 0574-61-0831

名鉄資料館 20 年のあゆみ

名鉄資料館の来館者から多い質問が二つある。一つは家族連れの方から、「家の孫が名鉄電車の運転士になりたいといっているがどうすればよいか」、というものである。これに対しては、特に特別なことはしなくていい、普通に勉強と運動に励めばよいと答える。

もう一つは、「名鉄さん、どうしてこんな所に資料館を作ったのですか」というものである。これに答えるためには、開設の経緯まで遡らなくてはならない。

1. 名鉄資料館開設の経緯

名鉄創業 100 周年を 4 年後に迎える平成 2 年 5 月以降、社内に組織された開発事業委員会で、ふさわしい記念事業選びに検討が重ねられ、従業員アンケートなどを参考にして、最終的に資料館建設が一つのみ選ばれた。同委員会による平成 5 年 5 月の「資料館建設構想のまとめ」によれば、保管資料及び今後の収集見通しからすると博物館として公開するほどの規模には至らず、公開施設として事業化は難しい。当社の歴史を物語る資料を体系的に保存・管理する資料保存中心型とし、従業員教育にも利用できる施設にする、とある。岐阜県内の広見線沿線に立地する名鉄教育センター(現教習所)敷地内に増設され、一般公開はしない(但し希望者は予約の上可、入場無料)ということになった。

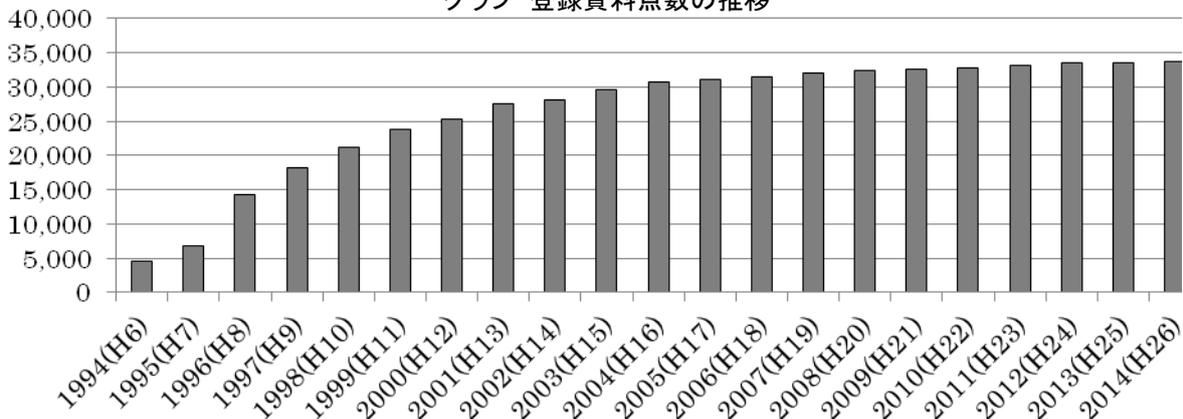
名鉄らしい控え目な、堅実な考え方である。しかし今から振り返ると、たいへん賢明な選択であったといえる。あの時一等地に立派な施設を作っていたらどうなっていたであろうか。バブル後の様々な施設が閉鎖されるリストラの嵐を無事乗り越えることができたかどうか寒心にたえない。

付言すれば、名鉄教育センターは日本ライン今渡駅から 2km 離れた木曾川河畔にある。昭和 50 年に旧教習所・乗務員養成所・可児寮(名鉄道場)を統合して建設されたものである。可児の名鉄道場では精神教育の一環として木曾川でみそぎを行っていたので、統合移転先として、引続き木曾川に臨む景勝な地が選ばれたのである(平成 7 年以降みそぎは行われていない)。

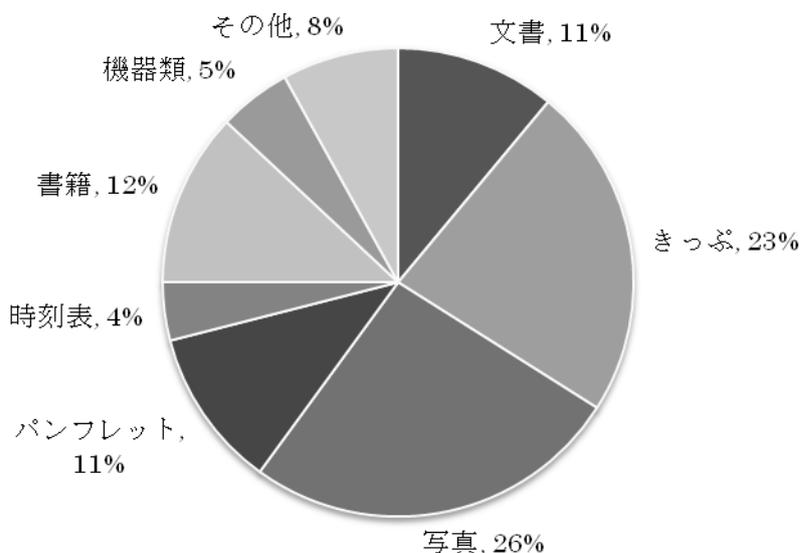
2. 資料の収集

開館時は収集資料約 6,000 点、うち展示資料 1,500 点であったが、現在は 33,600 点余である。10 年かけて平成 16 年に 3 万点に到達したが、以降漸増となっている。

グラフ 登録資料点数の推移



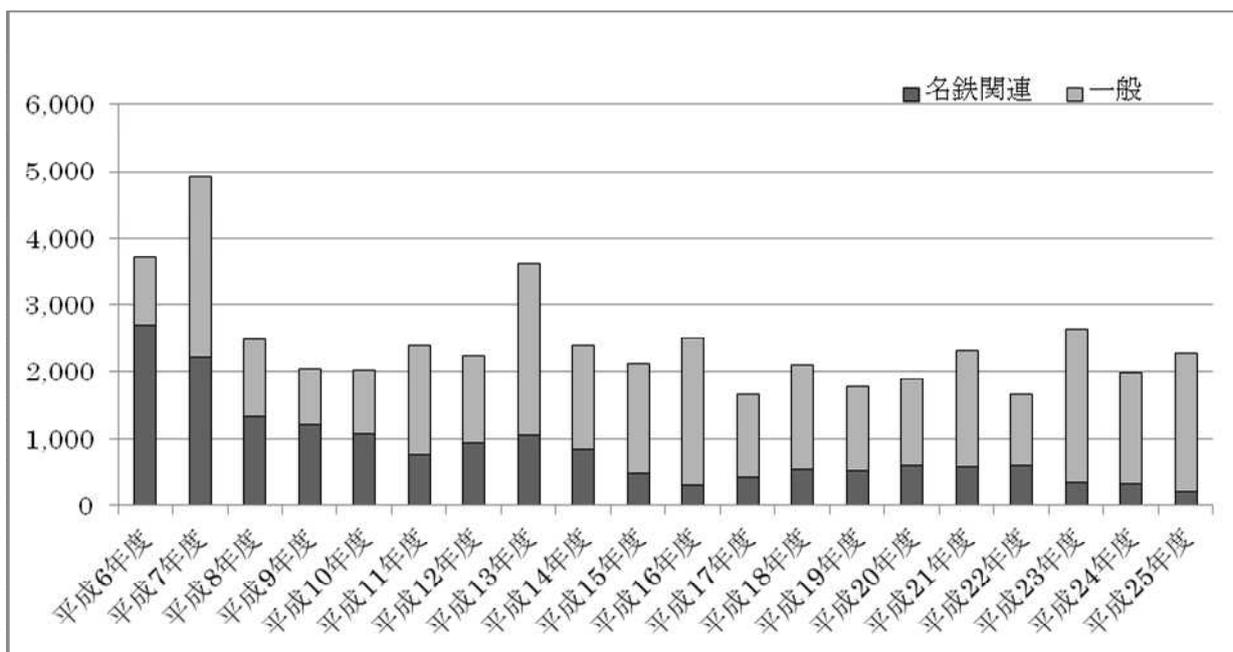
登録資料の内訳は下の円グラフの通りである。



きっぷ、写真がほぼ 1/4 ずつを占め、以下書籍(12%)、パンフレット(11%)、文書(11%)と続いている。その詳細は後の「所蔵品の来歴とその概要」を参照されたい。

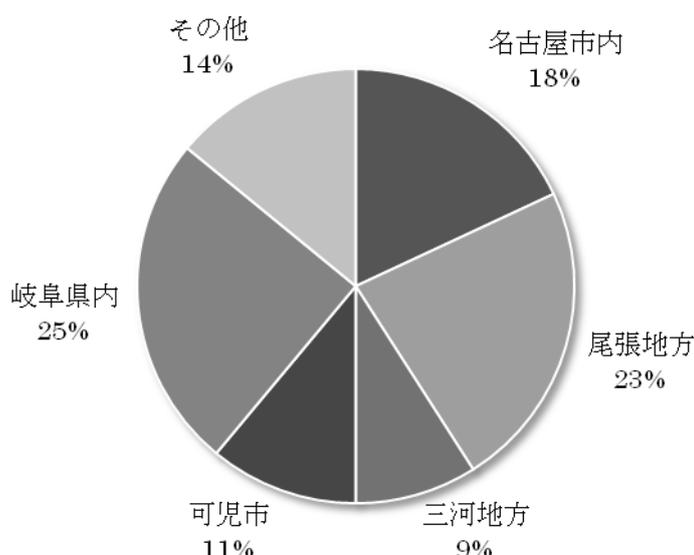
3. 見学者数の推移

開館 1、2 年は多かったが、以降は年間 2,000 人前後となっている。ハイキング、ウォーキングのコースに資料館が組み込まれた年は 400～500 人ほど多い。平成 13 年度 3,600 人に達したのは、この年谷汲線など岐阜 4 線と北アルプス号が廃止となったからである。教習所の附属施設であるので土日祝日は休館日であるが、平成 13 年より特別展などに合わせて年に数回日曜日に特別開館してきた。特別開館日の見学者数は 70～300 人と波が大きい。



平成 26 年 3 月末での累計見学者は 48,777 名で、延開館日数は 4,741 日である。一般見学者の内、公共交通利用者は 15% である(平成 25 年度)。

平成 25 年度の見学者の居住地分布は円グラフの通りである。



可児市を除く岐阜県内は 25%、尾張地方 23%、名古屋市 18%、愛知・岐阜県以外は 14%の順となっている。愛知・岐阜県以外のうち関東・関西はそれぞれ 5%を占めている。北海道、沖縄など遠方からの入館者もあり、その範囲は 23 都道府県に及んでいる。

4. 特別展の開催

平成 10 年開催の特別展「なつかしの岐阜の電車たち」をはじめとして、これまで 34 回開催してきた。夏季、秋季の年 2 回のパターンであったが、最近では春季が加わり年 3 回となっている。特別展は周年記念などをテーマとし、資料収集と調査研究の良い契機となっている。見学者がどうしても限られるため、本年 3 月より過去 8 回の特別展を「資料館HP 特別展示室」で概要を公開している。

特別展の中で特に反響が大きかったものは、平成 11 年に開催した「鳥瞰図の名手・吉田初三郎と名鉄電車」である。吉田初三郎は名鉄の世話で、大正 12 年秋から昭和 11 年 4 月までの 13 年間犬山市の木曾川河畔に彼の画室・蘇江画室を構えていた。今は毎年全国のどこかで初三郎展が開催されているが、この展覧会はその嚆矢といえる。以来名鉄資料館にとって初三郎は大きなテーマとなり、これを含め過去 3 回特別展を開催した。初三郎に関連した問合せも多い。

特別展のあゆみ

| | | |
|----------------|---|--|
| 1998(H10).6.15 | 特別展「なつかしの岐阜の電車たち」開催～8.31 | |
| 1999(H11).6.01 | 開館 5 周年記念特別展「鳥瞰図の名手・吉田初三郎と名鉄電車」開催～11.30 | |
| 2000(H12).4.24 | 写真展「名鉄電車思い出のアルバムⅠ なつかしの電車・機関車」開催～5.26 | |
| 6.01 | 写真展「名鉄電車思い出のアルバムⅡ わたしの自慢・傑作写真」～6.30 | |
| 7.24 | 特別展「ポスターが伝える名鉄の歴史」～8.31 | |
| 2001(H13).6.01 | 名鉄パノラマカーデビュー 40 周年記念「なつかしの名称特急展」～8.31 | |
| 9.23 | 特別展「さよなら北アルプス号」開催～11.30 | |
| 2002(H14).7.01 | 夏季特別展「貴重な名鉄のきっぷー久田コレクション展」開催～8.30 | |

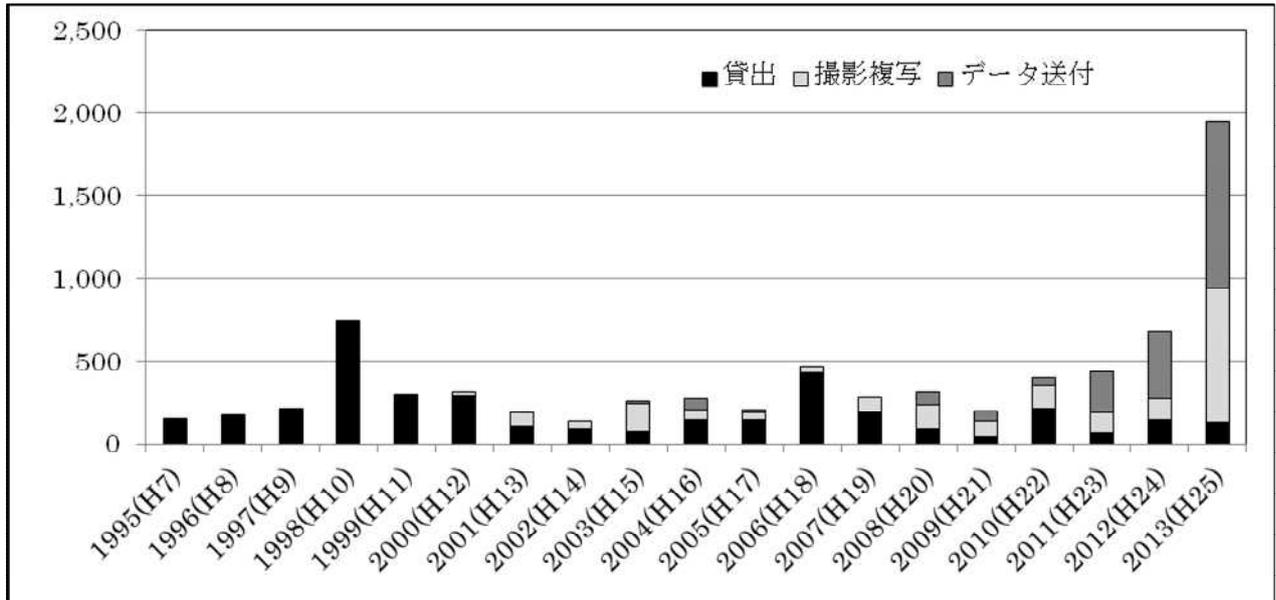
| | | |
|-----------------|--|---|
| 2002(H14).10.08 | 秋季特別展「小牧線いまむかし」～11.30 11.24 小牧線・上飯田連絡線現地見学会開催 | |
| 2003(H15).7.06 | 夏季特別展「博覧会と電車」併催「大阪万国博のきっぷ(久田コレクション)」開催～8.31 | |
| 10.07 | 秋季特別展「名鉄電車・戦前のポスター、絵葉書展」開催～11.30 | |
| 2004(H16).6.08 | 開館 10 周年記念「名鉄の記念乗車券」開催～8.31 | |
| 10.01 | 秋季特別展「HSST 開発 30 年の歩み」開催～11.30 | |
| 2005(H17).7.01 | 夏季特別展「名鉄の時刻表」～8.31 | |
| 10.14 | 秋季特別展「初三郎が招く名鉄沿線名所巡り」～11.23 | |
| 2006(H18).7.01 | 夏季特別展「知多鉄道デハ 910 形の軌跡」～8.31 | |
| 10.14 | 秋季特別展「写真で見る名鉄沿線いま・むかし」～11.26 | |
| 2007(H19).4.28 | 春・夏季特別展「新資料発掘！ デシ 500 形と 2 つの流線型車両」～8.31 | ☆ |
| 10.14 | 秋季特別展「身近な産業遺産発見一名鉄の古レール」～11.25 | |
| 2008(H20).7.14 | 夏季特別展「さようなら犬山モノレール」～8.31 | |
| 10.13 | 秋季特別展示「ゴールデングローライトの輝き」～11.30 | |
| 2009(H21).7.21 | 夏季特別展「伊勢湾台風と名鉄電車」～8.31 | |
| 2010(H22).7.21 | 夏季特別展「吉田初三郎による私鉄沿線の鳥瞰図展」～8.31 | |
| 10.06 | 秋季特別展示「新収蔵品展」～11.30 | |
| 2011(H23).5.05 | 春季特別展「パノラマカー登場 50 周年記念写真展」～6.30 | ○ |
| 7.21 | 夏季特別展「想いで岡崎市内線、挙母線、三河線(一部)写真展」～8.31 | |
| 10.03 | 秋季特別展「廃止から 10 年・北アルプス号」～11.30 | ○ |
| 2012(H24).3.20 | 春季特別展「岡崎市内線写真展」～5.31 | ○ |
| 7.11 | 夏季特別展「昭和 30 年代の名鉄風景」写真展～9.10 | ○ |
| 10.01 | 秋季特別展「犬山線開通 100 周年記念展」～11.30 | ○ |
| 2013(H25).3.24 | 春季特別展「名鉄沿線のいま・むかし」～5.31 | ○ |
| 7.16 | 夏季特別展「常滑線全通 100 周年記念展」～9.13 | ○ |
| 10.10 | 秋季特別展「想いでの一宮線・岩倉支線写真展」～11.29 | ○ |
| 2014(H26).3.23 | 春季特別展「津島線開通 100 周年記念展」～6.08 | |

注:右欄に○印があるものは「資料館 HP 特別展示室」で概要を公開

☆印は、鉄道ピクトリアル No.791・792(2007.7・8月号)に掲載

5. 資料の利用状況

ほぼ毎年 200 点以上の資料が社内外で利用されており、比較データはないが他の資料館、博物館に比べかなり高い利用点数と思われる。特にここ 2, 3 年は色々な催事が重なり急激に伸びている。IT 技術の進展に合わせて平成 15 年度よりデータ送付を始めた。



平成12年上期までは貸出点数に撮影複写を含む

| 期間 | 点数 | 主な利用先 |
|-------------|-----|---|
| 1995(H7) | 153 | 尾西市歴史民俗資料館7点、三菱信託銀行名駅付近のバスのポジ98点、瀬戸歴史民俗資料館17点 |
| 1996(H8)上期 | 57 | トヨタ博物館3点、有松まちづくりの会4点、社史編纂名鉄エンジニアリング12点、海上観光船4点、名鉄交通7点 |
| 1996(H8)下期 | 107 | 郷土出版社「瀬戸線の90年」66点、宮内庁書陵部(昭和天皇伝記編纂)17点、笠松町歴史民俗資料室4点 |
| 1997(H9)上期 | 101 | 新美南吉記念館「おじいさんのランプと知多の開明」16点、郷土出版社「岐阜のチンチン電車」69点 |
| 1997(H9)下期 | 66 | 関市々史編纂室5点、中日新聞尾西線百年特集52点、 |
| 1998(H10)上期 | 189 | 豊田市郷土資料館「乗り物の歴史展」65点、営業部瀬戸線栄乗入れ20周年記念乗車券75点 |
| 1998(H10)下期 | 485 | 郷土出版社「知多半島の名鉄90年」250点、大林組社史編纂25点 |
| 1999(H11)上期 | 103 | スカイセンター「時刻表」復刻8点、岐阜市歴史博物館「のりもの凶鑑」展43点 |
| 1999(H11)下期 | 114 | 名鉄産業社史編纂24点、日本ライン観光12点 |
| 2000(H12)上期 | 135 | 尾西市・佐織町・弥富町「尾西線の100年」92点、桜ヶ丘ミュージアム「交通の歴史 豊川とその付近」9点 |
| 2000(H12)下期 | 142 | 中部運輸局鉄道の日イベント1点、瀬戸線・小牧線記念乗車券6点、美濃市商工観光課3点 |
| 2001(H13)上期 | 111 | 東京電力「電気の史料館」2点、羽島市歴史民俗資料館「名鉄竹鼻線のあゆみ」17点、音羽町町史編纂13点 |
| 2001(H13)下期 | 80 | れいめい「使命を終えた4線区」18点、岐阜県史編集室9点 |
| 2002(H14)上期 | 49 | 業務課記念乗車券等27点、NHKブレーンズ初三郎5点 |
| 2002(H14)下期 | 90 | 小牧市「こまきスマイルレールまつり」36点、愛知教育大学生卒論34点、新川町史編纂5点 |

| | | |
|-------------|------|---|
| 2003(H15)上期 | 208 | 岡崎市六ツ美小「旧西尾線展示会」18点、愛知県史編纂室 105点、瀬戸市産業観光課 32点 |
| 2003(H15)下期 | 51 | 桜ヶ丘ミュージアム「飯田線展」25点、テレビ愛知岐阜4線データ 5点 |
| 2004(H16)上期 | 118 | 西尾市岩瀬文庫「西尾線の思い出展」4点、スカイセンター59点、可児市史編纂 21点、中経連 8点 |
| 2004(H16)下期 | 157 | 北方町図書館揖斐線展示 31点、女性と仕事の未来館 6点、岐阜農林高校放送コンテスト出品 11点 |
| 2005(H17)上期 | 58 | 岐阜県博物館「岐阜の鉄道展」29点 |
| 2005(H17)下期 | 148 | 名鉄百貨店メルサ連絡通路催事 97点、蒲郡市博物館「蒲郡の交通」15点、豊田市狸山地区 100年史 19点 |
| 2006(H18)上期 | 413 | 名鉄百貨店「めいてつファミリーワールド」371点、中日スポーツドラゴンズ関連 10点 |
| 2006(H18)下期 | 52 | 桑名市輪中図書館鉄道展 19点、豊田市藤岡町史作成 21点 |
| 2007(H19)上期 | 239 | 知多市歴史民俗博物館「常滑線開通 95年展」98点、名古屋市史編纂 9点 |
| 2007(H19)下期 | 42 | イカロス出版 5点、西村はつ(鉄道研究者)10点、可児市市史編纂室 1点 |
| 2008(H20)上期 | 127 | 愛知県史編纂 30点、岡崎市市民祭り 13点 |
| 2008(H20)下期 | 186 | モンキーパークのりもの大博覧会 41点、愛知県治水課 4点、豊田市郷土資料館「尾三バス企画展」6点 |
| 2009(H21)上期 | 120 | 名鉄GH「電車であそぼ」12点、中部国際空港「ありがとうパノラマカー」7点 |
| 2009(H21)下期 | 74 | 東邦ガス・エネルギー館 15点、NHK「日めぐりタイムトラベル」モンキーセンター関連 30点、御嵩小学校教材 10点 |
| 2010(H22)上期 | 120 | 名百一宮店催事 10点、半田市立博物館鉄道展 10点、CBC テレビ「花咲かタイムズ」30点 |
| 2010(H22)下期 | 274 | 中山道みたけ館「みたけの鉄道 90年史」31点、グランコート名古屋催事 20点、東和不動産名駅前街づくり調査 10点 |
| 2011(H23)上期 | 210 | 岡崎中央図書館西尾鉄道展 8点、樹林舎 14点、梅小路蒸気機関車館お召列車 6点、電通名鉄名古屋駅開業 70周年 12点 |
| 2011(H23)下期 | 226 | 中部支配人室空港駅催事 46点、樹林舎「知多半島の昭和」58点、尾張旭市市史編纂 12点 |
| 2012(H24)上期 | 377 | 知多市歴史民族博物館「常滑線開通 100年展」80点、ユニー催事 31点、名古屋市守山区役所 50周年 22点 |
| 2012(H24)下期 | 298 | 南海電車まつり 10点、名鉄バスリニューアル催事 39点、名鉄グルメ博覧会 50点、中日新聞「中部財界ものがたり」18点 |
| 2013(H25)上期 | 607 | 大曾根幹事駅催事種別板等 11点、営業部常滑線 100記念乗車券データ 270点、樹林舎「稲沢・清洲の昭和」50点 |
| 2013(H25)下期 | 1340 | 犬山市・立山町北アルプス資料 45点、津島市観光交流センター「津島線開通 100周年記念展」54点、愛知県史編纂用れいめい 736点、広報 120年史挿入写真 45点 |

注:太字は公的な資料館等に貸し出し

名鉄資料館は資料貸出の問屋的機能を果たしている。地理的、時間的制約から資料館での見学者はあまり多くないが、貸出し展示によって多くの方々に資料を見ていただいている。名鉄の路線は地域の人々の熱意と努力によって作られたものが多い。尾西線(尾西鉄道)、瀬戸線(瀬戸電気鉄道)、竹鼻線

(竹鼻鉄道)、三河線(三河鉄道)等々。こうした鉄道の地元の資料館等で〇〇鉄道展が開催される折には、名鉄資料館から多くの資料が貸し出されている。このような資料館活動は、地域社会の名鉄への信頼に応えるものといえる。幸いどの展覧会も見学者が多かったと聞いている。

6. 調査研究活動

調査研究には一貫して力を注いできた。平成15年の夏季特別展「博覧会と電車」に際して「博覧会と鉄道(電車・HSSTを中心に)」を執筆したが、これは鉄道科学博物館が平成18年開催した企画展「博覧会と鉄道」のパンフレットに参考文献として挙げられている。

平成18年6月から翌年9月にかけて延べ32日間全線の古レールを調査し、「名鉄沿線の古レール台帳」を作成し、これをもとに「鉄道ピクトリアル」に2本ほど調査結果を掲載した。同じく「鉄道ピクトリアル」平成19年7、8月号に掲載した「知られざる名鉄電車史」が鉄道友の会第1回島秀雄記念優秀著作賞を受賞した。その受賞理由として、企画展示と連動した著作であり、「今後の企業資料館の運営のあり方を示す上でも模範となる著作」であると評価されている。



名鉄資料館の調査研究活動（執筆者の在任期間外の成果を含む）

| 発表年 | 執筆者 | 論文等の名称 | 発表雑誌等の名称及び出版社 |
|---------|------|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 1986.12 | 澤田幸雄 | 「廃止された線路を訪ねて 押切町一枒 杷島橋間と柳橋乗入れ」 | 電気車研究会『鉄道ピクトリアル』No.473 |
| 1994.12 | 恒川鋭夫 | 「名鉄資料館開設の目的と経過」 | シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第13回「鉄道遺産の現状と保存問題」 |
| 1997.3 | 伊藤利春 | 「瀬戸線 略年表」 | 郷土出版社『瀬戸線の90年』 |
| 1997.11 | 伊藤利春 | 「名鉄岐阜線 略年表」 | 郷土出版社『岐阜のチンチン電車』 |
| 1999.3 | 伊藤利春 | 「知多半島に文明の灯りをもたらした愛電」「常滑線、河和線、知多新線略年表」 | 郷土出版社『知多半島の名鉄90年』 |
| 2003.9 | 松永直幸 | 「ミュージアムの立地に関する考察」 | 文化経済学会『文化経済学』第3巻第4号 |
| 2005.6 | 松永直幸 | 「博覧会と鉄道(電車・HSSTを中心に)」 | 電気車研究会『鉄道ピクトリアル』No.762 |

| | | | |
|----------|-----------------|--|--------------------------------|
| 2005.7 | 石井重成 松永直幸 | 平成 17 年夏季企画展「名鉄の時刻表」 資料集 | 名鉄資料館資料 |
| 2006.1 | 石井重成 | 「写真で見る名鉄沿線のいま・むかし」 | 名鉄資料館資料 |
| 2006.1 | 松永直幸 | 「名鉄沿線 歴史のある風景」 | 電気車研究会『鉄道ピクトリアル』No.771 |
| 2006.1 | 田中義人 | 「名古屋鉄道 車両総説」 | 電気車研究会『鉄道ピクトリアル』No.771 |
| 2007.7・8 | 名鉄資料館 (服部重敬) | 「知られざる名鉄電車史」 | 電気車研究会『鉄道ピクトリアル』 No.791,792 |
| 2009.3 | 松永直幸 | 「名鉄沿線の古レール全 274 駅を調 査」 | 電気車研究会『鉄道ピクトリアル』No.816 |
| 2009.3 | 澤田幸雄 | 「名鉄の駅、構内設備の思い出、半世紀 前の配線略図から」 | 電気車研究会『鉄道ピクトリアル』No.816 |
| 2009.3 | 田中義人 | 「舞木検査場の業務と設備」 | 電気車研究会『鉄道ピクトリアル』No.816 |
| 2009.3 | 松永直幸 | 『新修名古屋市史資料編 近代 2』の交 通分野 | 名古屋市市政資料館 |
| 2009.8 | 松永直幸 | 「名鉄沿線の古レール台帳」 | 名鉄資料館資料 |
| 2009.9 | 松永直幸 | 「名古屋鉄道の古レール補遺—まだこ んなレールがあった」 | 電気車研究会『鉄道ピクトリアル』No.823 |
| 2011.4 | 松永直幸 | 「中山道鉄道の採択と東海道鉄道への 変更—東西両京連絡鉄道に関する三 つの問題」 | 吉川弘文館『日本歴史』第 755 号 |
| 2011.10 | 澤田幸雄 | 『西尾鉄道開業 100 年よもやま話』(共 著) | 西尾鉄道開業 100 年記念誌刊行会 |
| 2011.12 | 松永直幸 | 「神野金之助」の項目 | 吉川弘文館『明治時代史大辞典』第 1 卷 |
| 2012.7 | 松永直幸 | 「名鉄沿線 歴史のある風景 補遺」 | 電気車研究会『鉄道ピクトリアル』No.864 |
| 2014.3 | 松永直幸 | 『新修名古屋市史資料編 近代 3』の交 通分野 | 名古屋市市政資料館 |

7. まとめ

名鉄資料館の 20 年のあゆみを振り返ると、名鉄沿線の端に立地し、入館者は少ないが資料の貸出等は多く、ひたすら資料収集と調査研究に力を注ぐややユニークな資料館であったことがわかる。鉄道友の会会長の須田寛氏からは、「小規模だが、キラリと光る貴重な資料館といえよう」とやや過褒なお言葉を頂いている（朝日新聞 2014 年 1 月 7 日朝刊）。

今後もいろいろ環境の変化はあるが、資料保存中心という原点を忘れずに、歩みを進めていきたい。

収蔵品の来歴とその概要

松永直幸

(資料館担当 2000/H12.6.1～2014/H26.2.9)

資料館、博物館の命はその収蔵品にある。歴史的にみてもそれらの起源は、王侯貴族のコレクション、寺社の宝物、近代においては博覧会の陳列品などの保存展示にあった。収蔵品の量と質とが、その館の価値を決めているといっても過言ではない。またその来歴は、資料的価値を推し測る大きな要因の一つである。

名鉄資料館の収蔵品の来歴は、大きくいって次の三つからなる。

1. 昭和50年収集資料

昭和50年当時、明治村「土川元夫記念館」開設に伴い、従業員等に呼び掛けて収集した当社関係資料。この収集には社内横断的なプロジェクトチームが作られ、後藤久和、並百合一、久世守、寺尾久之の各氏がその任にあたった。集められた点数は現在の登録番号で750000台、1,800点となっている。主なものとして、総務部提供482点（記念乗車券、社用印鑑、昭和2年昭和天皇行幸関係）、余合俊一氏提供244点（時刻表、運賃表、駅配線図）、佐藤清鋭氏提供208点（絵はがき、沿線案内、鳥瞰図）、教習所提供207点（車両竣工図）、池田芳夫氏提供114点（古い乗車券）などがある。

土川元夫顕彰会の解散にあたって、これらの資料の中で明治時代のものを明治村に移管する話もあったが、並氏の尽力で分散は免れたという。しかし森徳一郎氏寄贈という名古屋電気鉄道「名古屋～一宮・犬山間電車開通」ポスター（大正元年）など一部のものは、この折明治村へ移管されたようである。伊藤利春氏が明治村から返還させた愛知電気鉄道「熱田・大野町間電車開通」ポスターもその一つである。

1の資料は教育センター（現教習所）に保管されてきた。

2. 社史編纂資料

「社史編纂資料」と称されるもので、昭和36年刊行『名古屋鉄道社史』編纂の際収集された資料を主とし、その後も追加されたものである。登録番号で850000台、4,000点である。内2,700点弱は古い写真で貴重なものが多く、現在も一番利用が多い。社史に掲載されたものの原写真を含む。これらの写真は現在データベース化を進めている。

文書類は1,100点あり、これが最も資料的価値が高い。当時の澤田幸雄氏ら編纂事務局員が創業家などを回って借覧し、返却にあたって会社で保管して欲しいと言われたものである。初代名古屋電気鉄道社長小塚逸夫の家に伝わった小塚家文書（22点）、同社創業時から経営の中心を担った岡本清三氏が残した岡本家文書（55点）、愛知電気鉄道の前身である知多電車軌道からの文書を伝える野々上家文書（33点）などがこれである。鉄道史研究の三木理史奈良大学教授から、「これだけ貴重な資料を保存している鉄道会社は少ない」と評価されている。これらを中心として名鉄資料館の資料は、『愛知県史』資料編に7点、『新修名古屋市史』資料編に15点採録された。この他名古屋電気鉄道時代の「那古野本社、工場平面図」などまだ未登録のものもある。

その後追加されたものとして、昭和40年代末から50年代初めに旧運輸省から返還された鉄道省

文書「営業編」がある。鉄道省文書には、免許・特許に関する「免許編」と営業報告書に関する「営業編」がある。「営業編」は鉄道会社から毎期鉄道省に提出された事業報告書と説明資料からなる。名鉄資料館には当社の路線の前身をなす美濃電気軌道から渥美電鉄に及ぶ18社64冊の「営業編」がある。鉄道史研究に必須な「免許編」は国立公文書館に所蔵されているが、当社関係で重要なものはそのコピーをとって収蔵した（未登録）。

2の資料は本社総務部で保管されてきた。

3. 資料館収集資料

1, 2以外の資料で、寄贈品と資料館による収集品からなり、27,800点を数える。個人からの100点以上の大口寄贈(登録点数のみ)は下記の通りである。

伊藤利春氏 715点(写真、時刻表、パンフレット)、水野広司氏 569点(きっぷ、宣伝物、文書)、今尾三夫氏 568点(パンフレット、書籍)、伊藤正氏 504点(書籍)、久田進氏 446点(きっぷ)、戸田為義氏 389点(きっぷ、ポスター)、白井昭氏 291点(写真)、石川勝正氏 285点(きっぷ、書籍)、倉橋春夫氏 274点(写真)、渡利正彦氏 154点(写真)、今枝憲治氏 144点(きっぷ)、深井正敏氏 138点(催事パンフレット)、岸義則氏 131点(写真)、伊藤町子氏 124点(きっぷ)、中根貞彦氏 108点(時刻表、ダイヤ)、各務鉄夫氏 101点(きっぷ)。この他宮崎新一氏からは7000系10両などの、清水武氏からは昭和30~40年代の貴重な写真をご提供いただいた。渡利氏以外はすべてOB等名古屋鉄道関係者である。

資料館による収集には購入と収集がある。これまでの主な購入品は吉田初三郎「犬山の鶺鴒」ポスター98,000円、同「南知多情緒」ポスター50,000円、愛電・名鉄等乗車券29枚52,500円、名古屋電気鉄道「名古屋〜一宮・犬山間電車開通」ポスター(大正2年)25,000円等などである。近年はほとんど購入出来ない状況にある。

資料館が行う収集活動には、鋭意努力した。

この20年間岐阜地区600V線区、三河線の一部、モノレール線など路線の廃止は相次ぎ、名鉄を代表したパノラマカー、2401号などの廃車も相次いだ。これらに際しては、あらかじめ希望資料を関係部署に依頼して、路線では駅名表、閉塞機器などを、車輛に際しては、車番、座席などを収集した。収集と連動して「さようなら北アルプス号」、「さようなら犬山モノレール」などの企画展を行った。

駅務機器の分野は進歩が速い。行先表示器の更新に際しては、電気部の協力により、太田川駅の行灯式と犬山駅の反転盤式のを収集し、天井からの吊り下げもお願いした。名鉄資料館では、手回し式から行灯式、反転盤式まで行先表示器の発展過程が一望できる。明治・大正時代のものばかりでなく、近年次々と更新される機器類を保存するのも、資料館の大切な役割である。教習所にあった自動改札機、出札機などはすでに依頼済みである。

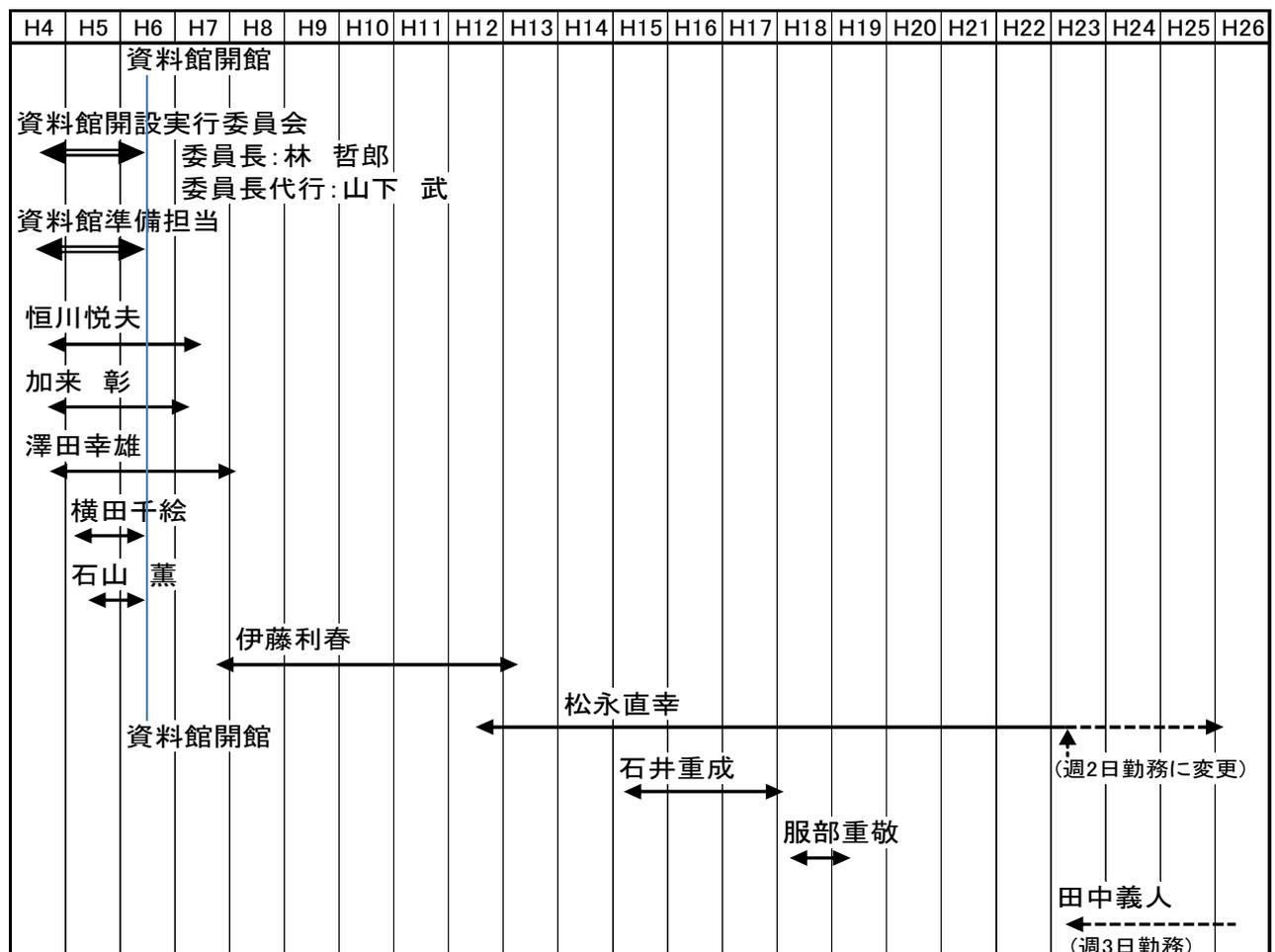
駅の柱や棧橋ホームに使われていた古レールは123本収集しており、双頭式レールからロシア製レールまで質量ともおそらく全国で一番のコレクションと思われる。平成18年6月から翌年9月にかけて延32日間全線に亘り調査して2,400本にのぼる「名鉄沿線の古レール台帳」を作成した。近年駅の改良工事により撤去されるレールが多いので、その中でめぼしいものを収集した。知立駅にあったウスリー鉄道のレールなどである。駅改良工事に際しては、土木部担当者より事前に一報をもらうことになっている。

機器以外のものでは、社内報、広報誌、時刻表、ダイヤ、沿線案内、パンフレットはもちろん、発売される記念乗車券、MEITETSU のロゴマークの入ったポスター等は、すべて資料館へ収納されるよう依頼している。

名鉄資料館の収集活動はこうした社内の情報網と広報宣伝、営業、土木、電気、車両など関係部署、さらに工事を施工する矢作建設工業や別会社化した名鉄バスなどとの協力によって成り立っており、改めて関係者に感謝申し上げたい。

今後の課題としては、ここ 20 年ほどの写真がほとんどないので広報部と連携してその収集に努めること、従来とおり社内で更新廃棄される貴重な資料は洩れなく収集すること、重複した資料は一部整理すること、さらに現在所在不明となっている大木遠吉の「不老閣」扁額と志賀重昂の漢詩軸（どちらも不老閣旧蔵、『名古屋鉄道百年史』に掲載）を探し出すことである。

資料館の歴代担当者一覧



(特別寄稿) 名鉄資料館開館 20 周年にあたって思うこと

林 哲郎

(資料館開設実行委員会・委員長 1992/H4.6.1~1994/H6.6)

このたび名鉄資料館が20周年を迎えるにあたって何か書いてほしいと頼まれ、すでに20年経ったのかと感慨無量である。当時私は資料館開設実行委員会委員長を仰せ付かっていた。

名鉄資料館の基本計画としては、保管資料の量と今後の収集見込みから判断して、公開施設として地域社会への貢献を期待するには少し無理がある。従って、当社の歴史を物語る資料を体系的に保存・管理することを目的とし、従業員教育にも利用出来る施設とする、ということが決まっていた。名古屋から離れた岐阜県可児市に立地する教育センターに併設する、一般公開はしない(但し希望者は予約の上可)という理由である。

20年経って資料もよほど充実したようである。私もおよばずながらそれに助力してきた。平成13年夏、OBの久田進さんから私に名鉄の記念乗車券を寄贈したいとの電話があった。彼は日本でも有数の乗車券コレクターである。暑いさなか担当者を連れて彼の家まで受け取りに行った。ファイル18冊に及ぶ久田コレクションがこれである。

さらに平成14年夏、『名古屋鉄道百年史』を執筆した伊藤正さんのご遺族から、鉄道関係の書籍と資料を寄贈したい旨申出があった。この度も私が担当者を連れて挨拶に伺った。彼は書庫を持っており、鉄道関係の書籍は専用の本箱に納めてある。本の選択とその並べ方には持ち主の考えが入っている。幸い本箱も頂けたので、担当者には資料館でも同じ順番で並べるよう指示しておいた。名鉄資料館では伊藤コレクションの本はばらばらではなく、持ち主の考え通りに並べられているので、地下の伊藤さんもきっと喜んでいてくれると思う。

資料は十分集まってきた。名鉄資料館が予約のいらない立派な鉄道博物館となる日が一日も早いことを、私は願っている。

(特別寄稿) 名鉄資料館 20 周年にあたり

山下 武

(資料館開設実行委員会・委員長代行 1992/H4.6.1~1994/H6.6)

名鉄は装置産業なので多額の投資で設備を整備し120年に亘り営業を続けてきた歴史があり、年月と共にその設備が更新廃止され散逸していた。なかには価値のあるお宝も存在するので、私は文書を含めてその保存に努める必要性を予ねてより感じていた。

創業100周年にあたり記念事業が検討され従業員アンケートが行われることになり、良い機会なので資料館もその候補に加えてもらった。その結果資料館が第1位で選ばれ私は大変喜ばしく思った。

資料館は教育センターの教室増設に便乗させてもらうことになり、2階が教室で1階を資料館が使うことになった。教育センターの前庭には「温故知新」の石碑があるように、そこに資料館が併設されることは従業員の教習にも有効に利用されることが期待される。

多くの資料は散逸しているので収集するのに大きな労力を要し、関連を初め各社に働きかけ、従業員・OBなど個人にも呼びかけた。この間の担当者の苦労努力は大変だった。そのなかで私が関心をもった2～3について記述する。

鉄道の代表は車両であるが、そのなかで旧式台車はぜひ展示したい。日本車両製のD-16型台車が欲しかったが、名鉄ではこの時期まだ再利用されており適当な発生品が入手できず困っていたところ、豊橋鉄道から条件に合った台車を提供頂き有り難かった。その後平成14年7月岐阜線で使用していた米国製のボールドウィンA型台車も展示された。

名古屋電気工業（今のメイエレクト）からは小牧線で使用され当時保管されていたCTC制御装置の提供をうけた。この様な大規模な機器は他にも何件もあり、関連各社が処分せず大切に保管して頂いていたものである。

鉄道はレールで支えられており古レールは当時側線でまだ残っていて、発生品は直ぐ保管するようにし散逸しないように努めた。以前から自分で収集したものも含め明治村などで保管されていたのでそれ等を主体に展示した。更に古レールについては担当者の努力もあり収集され充実しているので、コレクションとしては有数の部類に入ると思う。

鉄道模型のレイアウトは当初から設けたいと思っていた。そこで名鉄の従業員クラブのなかでも一番活躍している模型鉄道部に協力を要請した。模型鉄道部ではボランティアで労力を提供しレイアウトの設計施行を行ってくれた。パノラマカーを初め往年の名鉄車両が走っている。模型鉄道部のメンバーは代替わりしているが、毎年この設備のメンテナンスを年間の行事として行っている。

名鉄資料館は関連各社や個人の方々の協力と担当者の努力により開設に漕ぎ着け、更に20年充実してきた。即ち名鉄120年の歴史を反映している。担当者の研究も成果をあげており今後の発展を期待したい。

名鉄資料館開設の思い出

恒川 鋭夫

(資料館準備担当～資料館担当 1992/H4.6.1～1995/H7.5.31)

平成4年6月1日付けで、資料館準備担当の辞令をいただいた時には、私が選ばれた理由をいろいろ考えた。思い当たる節は、これと言ったことはなかったが、強いて言えば、遡ること十年程前に、4年間、資材部の資材課長を務めたことがあり、会社の物品について多少の知識があることが、選考の要素になったかなと思ったものである。

平成6年6月13日が、会社創業百周年と言うことで、資料館開設は、それを記念する目玉事業であり、2年間で開設にこぎつけよとの至上命令で、これはえらいことになったと思った。幸い、私の下に、機器類に詳しい加来彰さん、文書類に詳しい澤田幸雄さんの両ベテランを配していただいたので、その点は、それなりの配慮があったように思う。

資料館のモデルとしては、東京の京王電鉄さんの資料館が大いに参考になるとの情報を得たので、そちらへ出向き、いろいろご教示をいただいた。そんなわけで、名鉄資料館と京王電鉄資料館のコンセプトは、基本的に一致している。

資料館の名称については、「資料室」でいいのではないかとの消極的な意見が上層部から出されたが、僭越ながら私が「資料館」で押し切った。これについては開設実行委員会の委員長代行の山下専務の後押しがあったことを付記しておきたい。山下さんには、その後も、各面にわたり、ご懇篤なるご指導、ご示唆をいただいた。

まず資料の収集から始めることになったが、なにしろ、当初は、収集資料が全くゼロの状態であり、谷口社長からはOB会にお願いせよとのご指示があり、全線を地域割りにした七つのOB会に会長にお会いし、ご協力を要請した。各会長ともそれぞれ会員の皆さんに周知徹底され、大いにご協力いただき感謝している。又、以前に土川元夫顕彰会が集められた物、社史編纂チームが集められた物も、資料館の方へご提供いただいたので、全社の資料が一箇所に集約出来、よかったと思っている。収集した資料の保管場所にも、適当な所がなく苦労した。私所有の貸家が空いていたので、資料をそこへ運ぶ途中、雪のため車が動かなくなり、運転をしていた石川薫君ともども立ち往生したこともある。

次に、会社の組織のことについて、少し記しておきたい。平成4年、資料館準備担当発足当時は、総務部の所属であったが、平成5年には、広報宣伝部の所属になり、さらには平成6年には、教育センターの所属になった。正にコロコロと、一年毎に所属が変わったわけである。会社の方針であり、従うよりなかったが、それぞれの部長の、資料館開設の意義についての認識に温度差が見られた。私としては、2年後開設との至上命令達成のためには、已むを得ず、全社（子会社を含む）横断的な組織である、資料館開設実行委員会を推進母体として邁進するしかなく、これを評して、私の専行と見る向きもあったようであるが、やや心外の思いがある。

推進母体の中の中核メンバーの懸命の努力により、予定通り、平成6年6月8日、創業記念日の5日前に、開館が出来、当日のテープカットの様子は、NHKのテレビでも放映され、ほっとしたものである。

資料館の資料をよく見て、先人のご苦労の足跡を学び、その上で、将来に向けての創意を練っていただくことを、後輩諸君に、切に望みたい。

思い出の記

澤田幸雄

(資料館準備担当～資料館担当 1992/H4.6.1～1996/H8.1.26)

平成4年5月末、私は林副社長から資料館準備担当への異動の内命を受けました。それは百周年記念事業の一つとして、教育センター敷地内に資料館を建設することが決まり、2年後の創業記念日まで開館すること、引続き鉄道博物館を目指して内容を充実して行く仕事であるということでした。そして同時に進んでいる百年史編纂も関係の深い仕事であり、力を貸してほしいとの話でした。

本社内に事務局がおかれ、恒川部長、加来次長、私の3名が勤めることになりました。まず現地の教育センターに出かけ、私は初めて見るその立派な施設に内心驚きました。入口には温故知新と書かれた石碑があり、先人が築いてこられた会社の歴史を知ることの大切さを思い、資料館の建設は社員教育に有意義な記念事業と深く感じたものです。

資料館の素案は役員会で決められており、教育センターに保管されてきた文書写真等資料の引継ぎ

を受けました。恒川部長のもとに、建物と内容の具体的な計画の推進と、当面5000点を目指して資料収集の仕事を始まりました。また素案作成の参考とされた京王研修センター資料館をはじめ東京・大阪の博物館施設を見学させてもらいました。

資料は、文書類と機器類とに大別して展示保存し、車輛は実物を置かず、往時を再現できる模型を置くことになりました。鉄道模型の経験豊かな石山事務リーダーが加わり、4名体制で仕事に追われる毎日となりました。社内にも広く資料収集への協力をお願いし、資料提供の話があるとすぐに出かけました。社史編纂担当からは時々史実のお尋ねがありましたが、日程が迫ってくるにしたがってなかなかお応えができず、申し訳ない思いもしました。

5年6月には建物の地鎮祭が行われ、まもなく全体の形が目に見えてきました。建設途上では保存台車の搬入が大仕事でした。6年2月には1階が資料館、2階が教育センター教室となる建物が完成しました。以後は事務局が教育センターの現地に移り、残り少ない日数のなかで、資料館内の展示、壁面掲出資料の作成、開館準備作業が始まりました。開館の日が決まり、6年6月8日、杉山副社長らのテープカットで開館、ひとまずほっとした気持ちでした。

開館して資料の本格的な整理作業にかかりましたが、名鉄百年史の販売事務の仕事が重なり、一時期は殺到する電話申し込みに追われたこともありました。当面、資料保存が主目的で一般公開はしていないので、来館者は少ないのですが、教習項目の一つとして資料館での会社のあゆみの説明や、同業者や鉄道愛好者の来館対応の仕事がありました。とくに先輩からねぎらいの言葉をいただくときは大きな喜びを感じたものです。資料整理の作業を進めるうちに私は8年1月に定年となり、引継いで下さる伊藤さんには大変なお世話をかけました。

開館からもう20年、月日の経つことの早さを感じています。私自身の思い出となる最後の職場で有意義な仕事を、皆様のおかげで無事勤めさせていただき感謝しています。

末永く資料館がますます充実され、温故知新、会社と地域の今後の発展に役立てられることを願うものです。

平成26年4月

充実した楽しい思い出ばかり

伊藤 利春

(資料館担当 1995/H7.11.1~2001/H13.3.24)

名鉄資料館、開館20周年、誠に御目出度ございます。辞令を受けた時、『定年まで君の思う存分、資料館を仕上げてほしい』と下命を受け「やらせていただく」との気概で着任した。まず、収蔵庫に有った机を応接室に移動し執務室とし、全ての資料に目を通してみた。おおむね、資料は登録済みと聞いていたが実は肝心の資料に登録番号が標記されておらず、全てやり直すことになった。この機に登録番号に二桁の枝番を設け、保管場所、特記事項が入力できるようにプログラムを改定した。そして登録ラベルを作成し資料整理をスタートした。整理作業の中で驚いたのは購入品が一点もないことであった。開業当時の乗車券や時刻表にポスターさらに写真絵葉書等は、何としても収集する方針を立て色々入手したことを覚えている。

OBサロン兼特別展示室の開設

OB達は、勤めていた職場に自由に立寄りにくい雰囲気を感じていた。そこで、資料館内に自由に気軽に昔話ができる場として「OBサロン」を設けることにした。「れいめい」でも紹介してもらったが、実は、特別展示室を作る口実でした。常設展示の衝立を見学に来ていた教習生に手伝ってもらい工事費ゼロ。OBを迎えるため、タイルカーペットのみ購入しサロンの雰囲気を出すようにしました。

記念すべき第一回展は、前年に郷土出版社から共著で出版した『岐阜のチンチン電車』が非常に好評であったことから鉄道友の会名古屋支部長の渡利正彦氏の協力で「なつかしの岐阜の電車たち」を開催。展示写真は、そのまま寄贈してもらいました。『瀬戸線の90年』『知多半島の名鉄90年』も年表を担当し共著で出版し、いい勉強をさせてもらいました。

特別展で思い出すのは、開館5周年記念「鳥瞰図の名手・吉田初三郎と名鉄電車」です。全国的な初三郎ブームの中で、名古屋鉄道に関する記事に誤りが多く、それを是正する狙いもありました。たまたま全国誌「ラパン」で初三郎の連載中で、運よく名鉄資料館の特別展が掲載され宣伝。関東、関西はもとより北海道からも見学者が訪れ、うれしかったことを思い出します。

私は教育センター教師兼務で、新入生に社史の授業をしました。名鉄マン、グループマンに誇りを持ってもらうために歴代社長の肖像写真を飾ることにしました。我国ラジオ放送の嚆矢＝神野金之助社長（2代）。名古屋鉄道中興の祖で明治村生みの親＝土川元夫社長などお陰で授業は楽になりました。

このほか、普及活動として「時刻表」を復刻したこと。収集では美濃町線廃止の時、美濃町駅のベンチを自分の軽トラで運び、ペンキ剥離剤で修復したところ名鉄共栄社製と判明。同社社史にも紹介されたと記憶している。着札乗車券は、全て裁断され残らないことから、年一回、各路線の開業日に駅に協力してもらい社内封筒に詰めて列車便で送ってもらいました。体験型展示としては、「電車でゴー！名鉄編」やパノラマカー逆富士を展示し好きな名称列車板と付け替えるようにし見学者から喜ばれたことも思い出します。

最後になりますが、名鉄資料館は予算的に独立部署でしたので、その責任者として色々専決で実行させてもらいました。もう一つ『知多半島の名鉄90年』の編集に当り、明治村で保管されていた「熱田大野間電車開通」ポスターの寄贈者と親しくなり、名鉄資料館に見学に来られた折、「名古屋鉄道さんに寄贈したもの」と申し出があり、林副社長（当時）のお骨折りで、明治村から返してもらった。本来、名鉄のものであるべき物が明治村のものになってしまっていた。

このポスターは「ポスターが伝える名鉄の歴史」展の目玉として展示しました。私は、資料の収集では「鬼」であったこと、今も楽しい思い出として残っています。

名鉄資料館の思い出

石井 重成

(資料館担当 2003/H15.1.16～2006/H18.1.31)

定年を前にして、資料館への転勤は意外であった。まず、通勤時間、家から職場まで電車を2回乗

り換えて、2時間はかかる。往復4時間は無駄に思われた。それと資料館で働くほどの知恵も能力もない。職場は松永館長と二人、資料の収集・整理と、来館者の対応で一日は過ぎる。通勤時間を無駄にしないよう、本を読むことにした、幸い鉄道に関する本はそろっている、旅行記などは肩もこらない。野球などに興味もなかったが、ポケットラジオでナイターを聞いて時間をつぶした。

仕事になれてきたころ、秋の企画展「名鉄電車・戦前のポスター、絵葉書展」が開催された。ポスターといえども綺麗に管理すれば、芸術品となることを知った。

この年、内海フォレストパークが20年の歴史に幕を下ろした。私は開園時から13年間ここで働いていたから思い入れも深い。さっそく資料収集に現地へ出かけた。すでにロープも鉄塔もはずされ、廃墟同然となっていた。それでもロープウェイの図面と部品の一部を収集することができた。

2004.1.16、JR名松線の家城駅へ腕木式信号機の視察に出かけた。信号方式の変更のため競売にかけられるというのでその下見である。写真で見ると簡単に運搬できそうだが、軽トラではとても無理、見送りとなる。

開館10周年記念「名鉄の記念乗車券」展、「HSST 開発30年の歩み」展、2005年夏季企画展「名鉄の時刻表」、秋季企画展「初三郎が招く名鉄沿線名所めぐり」などいずれも記憶に残る展示企画であった。初三郎が描く鳥瞰図は見事なものである。

教育センターの一角にイチョウの大木がありました。秋には見事に黄葉し、沢山の実をつけます。地上に落ちた銀杏は、やがて芽吹いて成長します。2本を家に持ち帰りみかん畑に植えました。すでに3メートルに成長しています。やがて大木になることでしょう。

3年間でしたが、沢山の思い出をありがとうございました。

ある稟議書との運命的な出会い

服部重敬

(資料館担当 2006/H18.4.1~2007/H19.4.15)

人生の中には、単に偶然と言うにはあまりにも出来すぎた邂逅が何度かあることを、多くの方が実感していることだろう。私が名鉄資料館に勤務することになったのも、今から思えば、何か運命的なものがあったのかもしれない。

平成18年4月、当時、出向していた広告代理店の名鉄エージェンシーに電通資本が入ったことにより、出向者の大半が鉄道に戻るようになった。ここで名鉄資料館への辞令がでたのはどういう背景か、わからないが、かねてから関心のあった鉄道の資料を調査できるのは、まさに願ってもない環境であった。

赴任して数ヶ月が経過した頃、車両部から廃車になった車両の申請書を資料館で預かってもらえないか、との依頼があった。須ヶ口に保存してあった申請書の束を見に行くと、なんと鉄道線開業時からのもので、ほとんど全形式が揃っている。当社の車両については、かつて個人的にAL車、HL車について調べたことがあるが、これは監督官庁に出した書類で一次資料といえるものである。研究するにあたって、これほど調べ甲斐のある資料はない。さっそく資料館に輸送して貰い、ファイルを精査することにした。

そのファイルのひとつに赤茶けた書類が綴じ込まれていた。朱印の赤も鮮やかなその書類は、3400形を製造するにあたっての昭和11年6月の決裁書であった。それを読んで、椅子から飛び上がるほど驚いた。そこには3400形を「連節車」として新造したい旨、記されていたのである。3400形を、当初、連結部に台車を設けた連節車として製造する構想のあったことは伝聞として聞いたことがある。しかし、これまでいかなる形でも文章として見ることはなかった。それが、ここには稟議書という、もっとも信頼できる資料として残されていたのである。

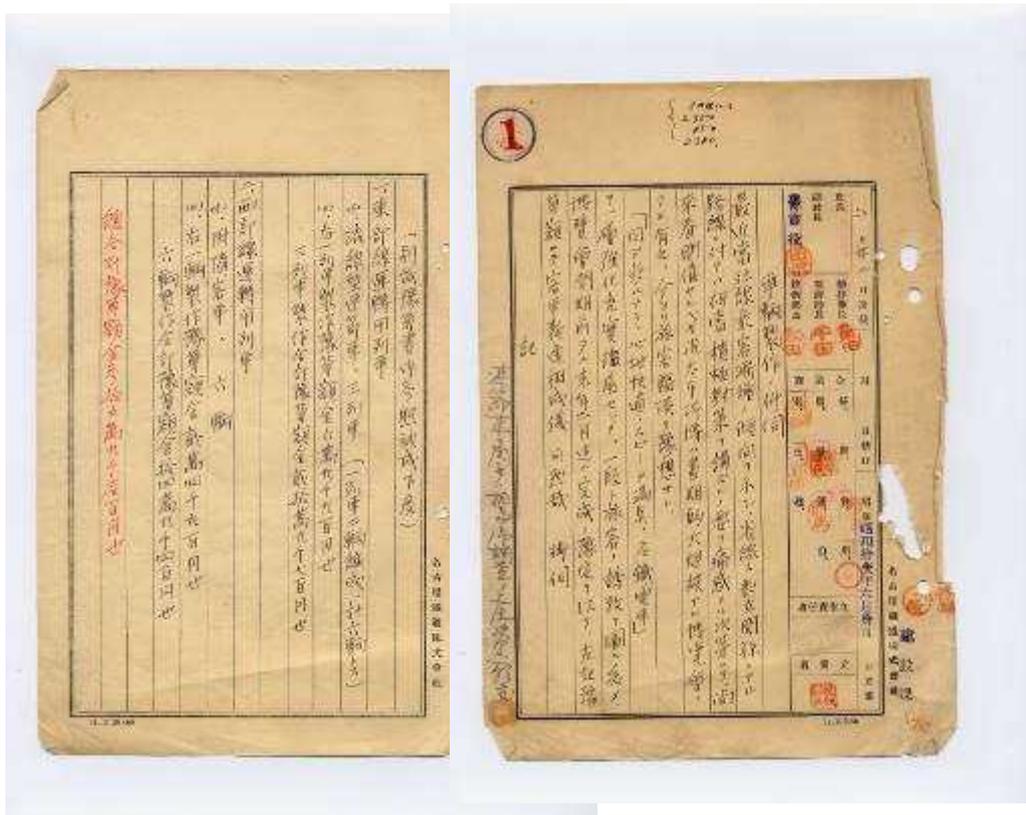
ご高承のように、3400形は昭和12年3月に名古屋で開催された汎太平洋平和博覧会にあわせ、旧

愛知電気鉄道の技術者により3編成6両が新造された流線型車両である。外観や意匠を凝らした内装だけでなく、当時の新機軸であった回生制動や、軸受けに当時は珍しかったローラーベアリングを採用して高速性能に優れ、平坦線では120km/hを出す事ができたと伝えられる戦前のわが国を代表する優秀車両であった。

3400形を連接車として計画した理由として、曲線部による乗り心地

や通過速度の向上、台車の数が減ることによる製造費や保守費用の削減といった経済性などが考えられる。また、流線型デザインの元となったドイツ帝国鉄道のフリーゲンダー・ハンブルガー（昭和8年製造）が連接構造を採用していたことや、製造メーカーである日本車輛が昭和9年にわが国初の連接車として京阪電鉄向け60形（びわこ号）、翌昭和10年に南満州鉄道向けとして、電気式ディーゼル車ジテを製造しており、連接車製造への実績があったことが背景にあったと思われる。反面、高速電車を連節構造とすることはわが国初であり、実績も乏しく、さらに保守の手間がかかることや、連接構造とする事により台車の軸重が増すことから軌道への影響が懸念され、その採用はかなり冒険であったと想定される。

3400形を連節車として立案したのは車両担当の建設部であったが、この稟議書には連節車に懐疑的な幹部から、欄外に意見が書き添えられている。意見を記したのは当時の電気課長である藤田研一で、「連節車ニ関シテハ相当御調査ノ上御決定願度」とある。結果的に、連節構造は見送られ、最終的な車両構造は一般的なボギー車となった。この間にどのような検討がされ、稟議された内容が覆されたのかはわからない。しかし、通常は稟議書として綴じられるべき書類が、こうして申請書のファイルに綴じて残されたのには、何か意図的なものを感じさせる。



資料館に移された車両ファイルの中には、郡部線の最初の車両として製造されたデシ 500 形に関する資料も含まれていた。それらを分析し、その成果として展覧会を企画した。そして、単に展示だけで終わらせるのではなく、展覧会の PR と文章として記録するため、旧知の鉄道ピクトリアル誌に依頼して原稿を載せてもらうこととした。こうして「知られざる名鉄電車史」と題した記事を名鉄資料館名で執筆した。この原稿は同誌の平成 19 年 7, 8 月号に掲載された。

この原稿は、その後、思わぬ展開をみせる。翌平成 20 年の 9 月、鉄道友の会がこの年に創設した「島秀雄優秀著作賞」の定期刊行物部門のひとつとして選定されたのである。選定の理由は、「著作物の内容が鉄道研究に対して学術的および趣味的に資するところが大きい」「企業資料館の活動としての成果であること、同館の展示企画との連動という形であることが評価できる」というものであった。

「知られざる名鉄電車史」の展示にしろ、記事の内容にしろ、これまで名鉄の歴史の中でまったく知られていなかった歴史を掘り起こした、と自負しており、その内容には自信を持っていた。しかし、対外的に評価を得て、賞を得るとは夢にも思っていなかった。それは単なる伝聞ではなく、当時の状況を伝える稟議書そのものの存在があったことが大きい。

それにしても、なぜ、この稟議書が申請書のファイルに残されていたのだろうか。この稟議書は連節車の新造を稟議しており、結果としてはそれが実現せずに撤回されたわけだから、不要になった書類といえる。だからこうしたファイルに綴ることができたのだろう。

しかし、こうしてファイルに綴られて残されたのは、関係者の誰かが後世にこうした事実があったことを伝えようとしたのではないか、と思えてならない。加えて、このファイルは申請書の綴りなので、車両の関係者なら見る機会があったはずである。それが、何十年もの間、その存在が全く表に出ず、私が赴任していたわずかな期間にその目の前に出現した。それは、単なる偶然といえるのだろうか。ひょっとしたらこの稟議書が、その存在を明らかにするため、私を資料館に呼び寄せた、と考えるのは考えすぎであろうか。

ひとつだけ惜しまれるのは、文責を明記せず、加えて賞を受賞した時点ですでに資料館を離れていたため、授賞式へ参加できないなど、その榮譽を実感することができなかったことである。それはこうして資料館 20 周年としての記録に残せたことで、良しとすることにしよう。

名鉄資料館の仕事を引き継いで・・・

田中義人

(資料館担当 2011/H23.3.16～継続中)

私が名鉄資料館に勤務を始めたのは、名鉄を 60 歳で定年退職して半年経過した平成 23(2011)年 3 月 16 日だった。週 2 日勤務のパートタイマーとして仕事を始めた。前任の松永さんの勤務が週 4 日となり、週の内 1 日は松永さんと 2 人勤務で、資料館の仕事内容を教えてもらいながらの勤務となった。3 ヶ月後の平成 23 年 6 月から、私が週 3 日、松永さんが週 2 日の勤務に変更になり、平成 26 年 2 月に松永さんが退職されるまで、その体制が継続した。

資料館に勤務を始めて、まず戸惑ったのは膨大な資料があるため、どこに何があるか分からないと

いうことであった。とりあえず文書収蔵庫の中を、一通り目を通すことから始めた。3年間勤務し、重要な資料や、よく使う資料については、ある程度把握できたと思っていたが、最近でも棚の中からお宝資料を発見することもあり、保管資料の全貌はまだまだ把握しきれていない。

勤務を始めて間もなく、松永さんから「特別展」を企画するように依頼され、まず頭に浮かんだのが「パノラマカー」のことであった。名鉄の象徴・パノラマカーは、その2年前に引退したがパノラマカー人気はまだ根強く、平成23(2011)年6月1日に誕生から50年になるので、「パノラマカー登場50周年記念写真展」をH23/5/5～6/30の会期で開催した。期間中特別開館を2回実施し、6月26日(日)の特別開館には302名の来館者があり、通常の特別開館としては最大の来館者数であった。(5/5の特別開館日も194名の来館者で盛況であった)

私も現役最後の頃、パノラマカーの保存・展示に携わったため特別な思い出があり、その展示会が出来たことは嬉しかった。

資料館の仕事の中で最も手間暇掛かるのが、社内外からの問い合わせに対する回答と、資料の提供である。広報部・営業部・各支配人室から、プレス提供用、記念乗車券・記念カード用に〇〇の写真を提供してほしいという依頼があった場合、文書収蔵庫の中の膨大な写真の中から最適な写真を探し出し、それをスキャナで取り込みデジタルデータ化して送る必要がある。(写真の貸し出しは、紛失の恐れがあり、過去に何枚か戻ってきていない事例があるので、貸出禁止にしている)

これは大変手間が掛かる作業なので、平成23年7月頃から、暇なときは資料館所蔵写真をスキャナで取り込み、デジタルデータ化することにした。これはかなり根気の要る作業で、来館者があれば中断され、作業は思うように進まなかったが、それでもこれまで3年間で約7,000枚の写真・図をデジタルデータ化した。しかしこれでも資料館所蔵写真・図(未登録も含む)の1/5程度であろうか。まだゴールが見えない状況である。

棚の奥に、未登録の大量の白黒ネガアルバム(昭和30年代)を発見し、なかなか興味深い貴重なお宝写真がたくさんあったので、特別展「岡崎市内線写真展」「昭和30年代の名鉄風景写真展」を開催した。

写真を整理していると、いつ、どこで撮影されたか分からない写真が大量にある。撮影場所については9割くらいまで推定できるが、撮影年代は不明である。写っている車両・駅舎などで社史の年表を調べ、撮影年代を推定する作業を行った。しかし、場所・年代不明の写真もかなりある。説明付の写真の中にも、説明文の間違いを発見する場合もあった。(自分が推定した場所・年代も後から間違いに気付く場合もあった)。

スキャナで取り込んだ写真をデータ保存する際、ファイル名に登録番号・撮影場所・撮影年等を記入した。創業120年の関係で、最近写真の提供依頼が増えているが、データのデジタル化したことと、ファイル名で検索(ある程度)できるので、おおいに役に立っている。

また、創業120年に関連して「れいめい」や、記念乗車券の年表関係の校正依頼が増えているが、これも手間暇の掛かる作業である。なるべく間違いのないデータを提供しようと心掛けると、いろいろな資料を調べる必要があり、泥沼にはまり込んだような気分になる。100年史の年表にも先輩諸氏が発見された間違い箇所が多数あり、一般の人はそれを正しいと信じ込んでいるわけで、どうやって誤りを正していけばいいのか悩ましい。

特別展は、開館4年後の平成10年から特別展示コーナーを作り、テーマを選定し毎年1～3回開催している。収蔵庫に保管している貴重な資料を選んで展示するが、特別展終了後はまた元に戻すため、特別展期間中限定の展示となる。折角の特別展であるが、不便な場所にあることもあり、お客様の目に

触れる機会が少ない。特別展・企画展を行った場合、展示内容の図録を発行するのが一般的であるが、資料館にはそのような予算もない。

平成 19 (2007)年の特別展「新資料発掘！デシ 500 形と 2 つの流線型車両」は、服部重敬氏が「鉄道ピクトリアル」誌に「知られざる名鉄電車史」として出稿し、鉄道友の会の「嶋秀雄記念優秀著作賞」を受賞したが、それ以外は、特別展が終わった後、一般の人の目に触れる機会がない。

平成 25 年 4 月に、名鉄のホームページ(HP)を年度内にリニューアルするので、要望事項があれば提出するよう連絡があった。この機会に過去の特別展の内容を HP にアップしようと計画し、関係部署の承認を得て準備を進めた。平成 26 年 3 月に名鉄 HP がリニューアルされ、資料館のページに最近 3 年間の特別展 8 回分の内容を紹介した。ご覧になった方からは内容が充実していると好評をいただいている。

今年、名鉄は創業 120 周年を迎える。これに合わせて 120 年史を制作するため、広報部に 120 年史担当が配置され、100 年史以降の 20 年間の歴史を中心に編纂作業が進められている。資料館も年表の作成などで協力をしているが、年史担当者から 20 年間の写真の照会を受けても資料館には最近の写真がない。「れいめい」で使われた記念行事等の公式写真が本社にも保管されていないようである。歴史を伝える記録写真を今後どのように収集・保管していくかが課題として残っている。

また、資料を保管している文書収蔵庫・機器収蔵庫が両方とも現在既に満杯状態である。これ以上新しい資料を収蔵することが困難になりつつある。限られたスペースを有効活用するため、不要な資料の整理も今後は必要になると思われる。

資料館に 3 年間勤務して改めて思うのは、名鉄は私鉄として第 1 級の変化に富んだ歴史を持つ会社である。その歴史を後世に伝える名鉄資料館の役割は、今後ますます重要になってくると思っている。

名鉄創業 100 周年記念事業で建設された資料館も開設 20 年を迎えた。先輩達が収集された貴重な資料を整理し、名鉄の歴史を広く世の中に伝えていけるよう、もうしばらく頑張り、後継者に引き継いでいきたい。

資料館準備担当として、資料館の開設、資料収集に尽力された加来 彰さんは、平成 10 年頃に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りします。なお、ご遺族の方が加来さんの寄贈された制服等を見学するため平成 24 年に来館されました。

加来 彰(資料館準備担当～資料館担当 1992/H4.6.1～1995/H7.3.4)

新聞などで紹介された名鉄資料館



2つの展示室や収蔵室等を備える名鉄資料館

名鉄資料館を開設

教育センターの敷地内に名鉄100年の歴史を物語る資料を収集・保存・展示する「名鉄資料館」を開設 貴重な文書や時刻表、運賃表、写真、制服、各種機器類など約6000点を収集、そのうち約1500点を展示している 展示室内には鉄道模型コーナーやビデオ鑑賞のできる映像室などもあり、名鉄及びグループ社員の教育に活用される

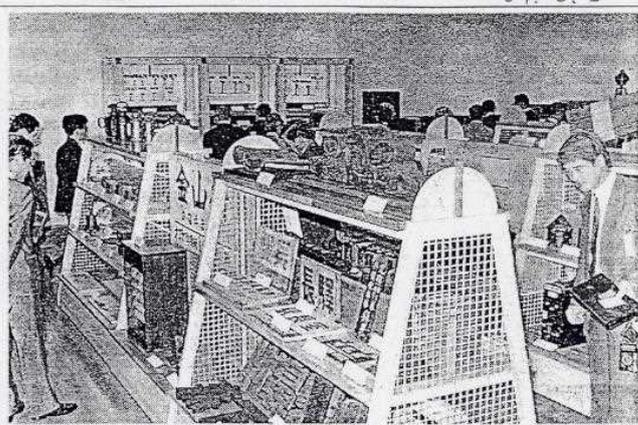
6月8日の開館記念式典でテープカットする西村中部運輸局長（中央・当時）、額額可児市助役（左）と杉山副社長（現取締役相談役）



展示室内には貴重な資料がズラリ（左）はD-16形台車とC形パンタグラフ

↑名鉄社内誌『れいめい』名鉄創業100周年記念号(1994/平成6年6月)

中 日 新 聞 194. 6. 9
(第3種郵便物認可)



名古屋鉄道が創業百周年を記念して、可児市川合に建設を進めていた名鉄資料館が完成し8日、開館記念式典が開かれた。

同資料館は、名鉄教育センターに併設され、鉄筋二階建て延べ千二百八十平方メートル。総事業費約五億円。

資料館約千点を収蔵。このうち一階に約千五百点を展示している。明治二十七年の創業に向け政府に申請された「愛知馬車鉄道敷設願」、昭和十年の「熱田神宮御遷座記念乗車券」、三十一年に全国に先駆けて小牧線に導入したCTC（列車集中制御装置）制御盤、平成元年の金山総合駅完成とともに廃止された「金山橋」駅の看板など、長い歴史を物語る資料が陳列ケースなどに並べられている。

この日の式典には、同社のO.B.関係者百五十人が出席。西村泰彦中部運輸局長、杉山孝雄副社長らがテープカットし、オープンを祝った。

資料館は、主に社員教育などの目的で建設されたが、あらかじめ申し込めば一般の来館も受け付けるという。日曜、第二土曜、祝日休館。

問い合わせは同資料館 電話0574(61)0831へ。

馬車鉄道敷設願や初のCTC制御盤

6000点を収蔵

名鉄資料館が完成

100年の歩みひと目

可 児

↑中日新聞 1994/平成6年6月9日

↑中日新聞 1999/平成11年6月2日

(第3種郵便物認可)

中



鳥瞰図の手法による観光案内図が並ぶ展示会場。いずれも可見市川合北の名鉄資料館で



「日本ラインを中心とする名古屋鉄道沿線名所図絵」の一部

名鉄資料館（可見市川合）のかつての鳥瞰図の複製が、吉田初北の特別展「鳥瞰（ちよ）三郎と名鉄電車」が一日、

昭和初期の名鉄沿線紹介 鳥瞰図パンフなど100点

可見 名鉄資料館で『特別展』

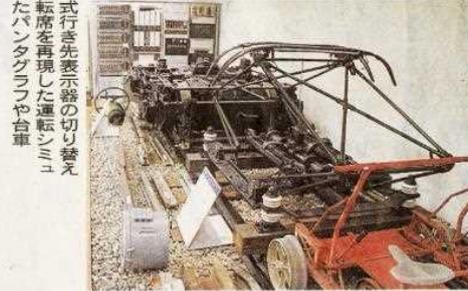
始まった。上空から見た風景を描く鳥瞰の手法による大正、昭和初期の沿線観光パンフレットなど、珍しい資料が並んでいる。

吉田初北（一八八四—一九五五）は、京都出身の画家。浮世絵の流れを引く鳥瞰図師として人気があった。名鉄の招きで大正末期から十一年間、犬山市にアトリエを構えて多くの作品を残している。

特別展では、名鉄が発行した折り畳み式のパンフレット（縦十八センチ、横七十八センチ）を中心に約百点を展示。極端な遠近法でメリハリをつけ、沿線の地名を入れた楽しい地図がそろっている。

全館とされる昭和初期に制作した「日本ラインを中心とする名古屋鉄道沿線名所図絵」は、木曾川のライン下りをメインにした地図。名古屋街地や、遠く富士山までを含めた雄大な背景が特徴だ。

同資料館の伊藤利春副長は「旅のロマンをかき立てる作品を集めました。ぜひ多くの人に見てもらいたい」と話している。開催期間は十一月まで。入館は無料だが、事前に申し込みが必要。問い合わせは同資料館（電話0574（61）0831）へ。



⑤ パノラマカーの先頭に装着されていた電動式行き先表示器の切り替え操作をする子どもたち。⑥ パノラマカーの運転席を再現した運転シミュレーター。⑦ 昭和初期頭の名鉄電車で使われたパンタグラフや台車



愛知、岐阜県を中心に路線網をもつ名古屋鉄道。その資料館は、ライバル社の出身ともいえる達人が見ても、名鉄の社風を物語る貴重なものだという。 24面

温故知新

産業観光を歩く

名鉄資料館（岐阜県可見市）

達人の見どころ

須田寛・JR東海相談役

物語る展示もほほえましい。名鉄が地域の足として地元を大切にしながら発展してきた、今日に至る社風の形成を物語っている。小規模だが、キラリと光る貴重な資料館といえよう。

キラリと光る展示、100年を伝える

名古屋鉄道は1894（明治27）年に愛知馬車鉄道として創業。4年後には、京都に次ぐ日本2番目の路面電車を開業した長い歴史を持つ。同社創立100周年を記念して1994（平成6）年、岐阜県可見市にこの資料館が開設された。

館内には、二つのメインルームがある。第一展示室は名鉄の100年を示す年表、沿線地図、昔の乗車券や古文書などが展示され、名鉄が数十社に及ぶ多くの会社を合併しつつ、大手民鉄では珍しい稠密な路線網をもつに至ったいきさつがよくわかる。

第二展示室は車両、駅、運転などにかかわる機器の展示が目玉。今は見られない単線区間の安全運行を守る通票閉塞器、古い電話交換機などは貴重だ。昔、新線開通の際、地元の人々に配った「徳利」や、これも大変珍しい女性駅長への辞令など、時代を物語る展示もほほえましい。

記者が見ると

《メモ》名鉄見線「日本ライン今渡駅」から徒歩約25分。土・日曜と祝日、年末年始は休館。入場無料だが、事前予約（0574・61・0831）が必要。（連勝一郎）

パノラマカー思い出し童心に帰る

木曾川近くの住宅街の一角、名鉄教習所の隣にひっそりとある。特設の宣伝はしておらず、来館者は少ない。だが、口コミやインターネットなどで知った親子連れが、マイカーやタクシーなどで訪れるという。

メロディーで注意を促すミュージックホンやシート、行き先表示器など、国内初の前面展望車・パノラマカー関連の品物が多数展示され、飽きさせない。運転の技を試すことができる「運転シミュレーター」もある。子どもたちが目を輝かせて楽しむ姿を見て、子どもころのパノラマカーの先頭車両に乗って喜んでいたのを思い出した。

電車好きの大人にも楽しく過ごせる施設だ。大型連休や夏休み期間中には、日曜の特別開館や写真展などのイベントもある。保存や収集に力を入れてきたため、古いレールなど、倉庫には「お宝」が数多くあるという。

地域の足 お宝が物語る

名鉄資料館 20 年史・年表

| | |
|----------------|---|
| 1990(H2)05.31 | 創業 100 周年記念事業・開発事業委員会(委員長石黒健二)第1回委員会開催 事務局経営企画部、以後ふさわしい事業選びに検討を重ねる |
| 1992(H4)05.27 | 開発事業委員会「資料館建設構想のまとめ」 従業員アンケートの中から 15 件を選び、さらに 8 件、4 件と絞り込み、最終的に資料館建設一つのみが選ばれた 昭和 50 年当時明治村「土川元夫記念館」開設に伴い従業員に呼びかけて資料を収集した(1479 件(内 50 件不明)教育センターで保存) 機器類が鉄道現場等で保管されている 保管資料及び今後の収集見通しからすると博物館として公開するほどの規模には至らず、多額な投資も必要であるので事業化は難しい 当社の歴史を物語る資料を体系的に保存・管理する資料保存中心型で、従業員教育にも利用できる施設とする 教育センターの建物を増設する、ここでの車両保存は行わない、一般公開はしない(但し希望者は予約の上可) |
| 1992(H4) 06.01 | 総務部に資料館準備担当が置かれ恒川鋭夫(部長)、加来彰(次長)、澤田幸雄(課長)着任 会社(子会社を含む)の横断的な推進母体として、資料館開設実行委員会(委員長林哲郎、委員長代行山下武)発足 |
| 7.06 | 経営会議において、百周年記念事業の一環として名鉄資料館の開設が決定 |
| 1993(H5)04.01 | 横田千絵(学芸員)着任 H6.5.31 まで |
| 6.01 | 総務部より広報宣伝部へ移管、石山薫着任 H6.5.31 まで |
| 6.15 | 現地にて地鎮祭 総事業費約 5 億円 鉄筋コンクリート 2 階建て(延床面積 1320 m ²) 1 階資料館(660 m ²) 2 階教育センター教室等 |
| 1994(H6)01.31 | 資料館新築及び教育センター増築工事竣工(大林組、中央設備エンジニアリング) |
| 2 月 | PC による資料管理業務開始(アップル Macintosh Centris 660AV) |
| 6.01 | 広報宣伝部より教育センターへ移管 |
| 6.08 | 名鉄資料館開館 中部運輸局長、可児市助役、杉山副社長の 3 人によるテープカット 収集資料約 6000 点、うち展示 1500 点 |
| 12.07 | 岐阜県博物館協会に加入 |
| 1995(H7)03.04 | 加来彰退職 |
| 3.07 | 名鉄資料館の開設が岐阜県の進めるまちかど美術館・博物館普及事業への協力と認められ 梶原拓岐阜県知事より感謝状を贈呈される(不動産取得税 45%減免) |
| 5.27 | GE 社製油入水冷式変圧器が産業考古学会推薦の産業遺産に認定される(その後東京電力「電気の史料館」に寄託) |
| 6.01 | 恒川鋭夫離任、澤田幸雄のみになる 教育センター部長は後藤田から国田へ |
| 11.01 | 伊藤利春着任 |
| 1996(H8).01.26 | 澤田幸雄退職 |
| 4.01 | 土曜日閉館、それまでは土曜 10-12 開館していた(第2土曜除く) |

名鉄資料館 20 年史・年表

| | |
|----------------|--|
| 1996(H8).11.11 | 郷土出版社『瀬戸線の 90 年』編集協力 |
| 12.01 | 宮内庁書陵部による昭和天皇に関する調査に回答(愛知県経由) |
| 1997(H9)01.31 | 宮内庁書陵部来館調査 |
| 6.11 | 郷土出版社『岐阜のチンチン電車』編集協力 歴史年表作成等 |
| 7 月 | 名古屋商工会議所文化委員会正副委員長と博物館等館長との懇談会発足(1999.12「産業観光推進懇談会」と改称) 名鉄資料館は当初からこれに参加 |
| 8.18 | 歴代社長肖像写真の展示(73 千円) |
| 1998(H10)06.10 | 第一展示室北西コーナーに OB サロン開設、以後企画展展示場として活用 |
| 6.15 | 企画展「なつかしの岐阜の電車たち」開催～8.31 |
| 11.13 | 郷土出版社『知多半島の名鉄 90 年』編集協力 |
| 1999(H11)06.01 | 開館 5 周年記念「鳥瞰図の名手・吉田初三郎と名鉄電車」開催～11.30 記念テレホンカード(初三郎の犬山鶉飼と松茸狩り 2 点)と時刻表の復刻(4 点) |
| 10.17 | 鉄道用品バザール開催(営業部 430 名) |
| 2000(H12)04.24 | 写真展「名鉄電車思い出のアルバム I なつかしの電車・機関車」開催～5.26 |
| 6.01 | 写真展「名鉄電車思い出のアルバム II わたしの自慢・傑作写真」～6.30 |
| 6.01 | 松永直幸着任 |
| 7.24 | 特別展「ポスターが伝える名鉄の歴史」～8.31 |
| 8.07 | 愛電・名鉄等乗車券 29 枚(昭和 6～17)購入 52.5 千円 特別予算 |
| 11 月 | 名鉄バーチャルタウンに HP 開設、月別アクセス数 1,500 件ほど |
| 2001(H13)01.24 | 戸田為義氏より乗車券ファイル 139 冊、時刻表 25 冊他寄贈受入 |
| 3.24 | 伊藤利春退職 |
| 5.11 | 吉田初三郎のポスター「犬山の鶉飼」購入 98 千円(当初備消品予算より充当) |
| 5.15 | 東京電力と使用貸借契約締結(回転変流器と水冷式変圧器)H18.3 まで以降 1 年ごとの自動継続 電気の史料館(川崎市)に展示される(現在休館中) |
| 6.01 | 名鉄パノラマカーデビュー 40 周年記念「なつかしの名称特急展」～8.31 |
| 7.12 | 久田進氏による久田コレクション受入(乗車券類ファイル 18 冊など)、特別予算で商品券 5 万円進呈 |
| 9.13 | OB 櫻井儀雄氏より名鉄車両模型 24 両寄贈受入 模型ケース作成 126 千円 |
| 9.14 | PC による資料管理システム更新(Oracle Database) |
| 9.23 | 特別展「さよなら北アルプス号」開催～11.30 |
| 10.22 | 吉田初三郎のポスター「南知多情緒」購入 50 千円(当初備消品予算より充当) |
| 2002(H14)04.01 | (株)スカイセンターと「委託販売に関する覚書」締結 |
| 6.10. | 名古屋電気鉄道ポスター「名古屋～一宮・犬山間電車開通」購入 25 千円 |
| 7.01 | 夏季特別企画「貴重な名鉄のきっぷー久田コレクション展」開催～8.30 |
| 7.02 | 風雨が玄関より吹込み事務室まで浸水 後年玄関ガラス扉前に水切りを開削 |
| 7.25 | 伊藤正氏(『名古屋鉄道百年史』執筆者)のご遺族より寄贈受入(書籍 318,資料ファイル 40、本棚等 557 点) |

名鉄資料館 20 年史・年表

| | |
|----------------|---|
| 2002(H14).8.01 | ボールドウィン製台車(602 台車)の保存展示 25t クレーン車手配 特別予算 6 万円 |
| 8.12 | 夕刻落雷により裏のヒマラヤ杉の根本が裂ける |
| 10.08 | 秋季企画展「小牧線いまむかし」～11.30 11.24 小牧線・上飯田連絡線現地見学会開催 15 名 |
| 2003(H15)01.16 | 石井重成着任 |
| 1.27 | 名鉄文庫より鉄道書籍受入 363 冊 |
| 1.31 | 「赤い電車友の会」と谷汲線 755 号用スノープロウ使用貸借契約締結 |
| 7.06 | 夏季企画展「博覧会と電車」併催「大阪万国博のきっぷ(久田コレクション)」開催～8.31 愛・地球博パートナーシップ事業に登録 CBCTV で放映される |
| 10.07 | 秋季企画展「名鉄電車・戦前のポスター、絵葉書展」開催～11.30 |
| 2004(H16)06.08 | 開館 10 周年記念「名鉄の記念乗車券」開催～8.31 NHK 岐阜放送局「ほっとミュージアム」 で放映される |
| 7.03 | 名鉄創業 110 周年記念大会ファミリーコース「歴史と文化の森・名鉄資料館」 |
| 10.01 | 秋季企画展「HSST 開発 30 年の歩み」開催～11.30 |
| 2005(H17)07.01 | 夏季企画展「名鉄の時刻表」～8.31 |
| 10.14 | 秋季企画展「初三郎が招く名鉄沿線名所巡り」～11.23 |
| 2006(H18)01.31 | 石井重成退職 |
| 4.01 | 服部重敬着任～H19.4.15 まで |
| 6.25 | 「赤い電車友の会」へ旧谷汲線 755 号用スノープロウの無償譲渡 |
| 7.01 | 夏季企画展「知多鉄道デハ 910 形の軌跡」～8.31 |
| 7.11 | 旧大阪三越百貨店の基礎に使われていた古レール 7 本を入手 ダーリントン、キャメル等 (長谷工コーポと高嶋三郎氏のご好意による) |
| 10.14 | 秋季企画展「写真で見る名鉄沿線いま・むかし」～11.26 |
| 10.27 | 日本ライン今渡駅に資料館案内看板の設置 50 千円 特別予算 |
| 11.01 | 中日本航空と鉄道グッズの委託販売契約締結 |
| 2007(H19)04.28 | 春・夏季企画展「新資料発掘！ デシ 500 形と 2 つの流線型車両」～8.31 |
| 9.28 | 明治村より古レール 8 本借用 名古屋電気鉄道の CARNEGIE NER など |
| 10.14 | 秋季企画展「身近な産業遺産発見一名鉄の古レール」～11.25 |
| 2008(H20)04.17 | 東京建物が名古屋プライムセントラルタワーの敷地(旧名古屋電気鉄道本社跡)に建てる記 念碑「名古屋における電気鉄道事業発祥の地」の文案作成(松永) |
| 6.27 | 豊田市郷土資料館へ「猿投登山案内図」「愛知県西加茂郡猿投村地理図」各 1 枚を寄贈 (旧平戸橋自動車営業所より複数入手したもの) |
| 7.01 | 人事部より営業部業務教育課教習所に移管 |
| 7.14 | 夏季企画展「さようなら犬山モノレール」～8.31 |
| 10.13 | 秋季特別展示「ゴールドングローライトの輝き」～11.30 |
| 11.27 | 桃花台新交通(株)より連動制御盤など 26 点寄贈受入 |
| 12.07 | 「知られざる名鉄電車史」(執筆服部重敬) 鉄道友の会 2008 年島秀雄記念優秀著作賞定期 刊行物部門受賞(「鉄道ピクトリアル」2007 年 7・8 月号掲載) |

名鉄資料館 20 年史・年表

| | |
|----------------|---|
| 2009(H21)03.24 | 太田川駅行灯式行先表示器取付(電気部予算による) |
| 4.04 | 小松バス山口博嗣氏よりれいめいファイル 44 冊、乗車券等 190 点寄贈受入 |
| 5.23 | 「日本モンキーパークの歩みとおとぎ列車レール見学会」に出講(松永) 参加者 23 名 |
| 7.21 | 夏季特別展「伊勢湾台風と名鉄電車」～8.31 |
| 2010(H22)04.29 | 7000 系模擬運転台の設置 |
| 5.23 | 「日本モンキーパークとおとぎ列車レール見学会」へ出講(松永) 参加 8 名 |
| 7.21 | 夏季企画展「吉田初三郎による私鉄沿線の鳥瞰図展」～8.31 |
| 10.06 | 秋季特別展示「新収蔵品展」～11.30 |
| 10.24 | 名古屋市緑政土木局「COP10 記念 名古屋城外堀の自然・歴史を知ろう！」の「外堀線の歴史」に出講(松永) 参加者 22 名 |
| 11.08 | 大曾根幹事駅より旧瀬戸電本社屋暖炉ピース、壁面タイル等 50 点受入保管 |
| 2011(H23)01.21 | 犬山駅反転盤式行先表示器、特急のりば案内取付(電気部予算による) |
| 3.16 | 田中義人着任(松永 2 日/週、田中 3 日/週の勤務となる。なお最初の 3 ヶ月間は松永 4 日/週、田中 2 日/週) |
| 5.05 | 特別展示「パノラマカー登場 50 周年記念写真展」～6.30 6 月 26 日(日)通常の特別開館日では過去最高の 302 名の入館者があった |
| 7.21 | 夏季企画展「想いで岡崎市内線、挙母線、三河線(一部)写真展」～8.31 故倉橋春夫氏ご遺族からの寄贈品による |
| 7.29・30 | 営業部「夏休み自由研究 in 名鉄資料館」開催 107 組 214 名参加 「名古屋鉄道の歴史」を分担し講義(田中) |
| 10.03 | 秋季特別展「廃止から 10 年・北アルプス号」～11.30 |
| 10.15 | 西部支配人室「ハロー・マイ・トレイン」に協賛し特別開館 213 名入館 |
| 12 月 | 教習所より撤去される MC-11 型制御器を収蔵展示(映像室) |
| 2012(H24)03.20 | 春季特別展「岡崎市内線写真展」～5.31 |
| 7.11 | 夏季特別展「昭和 30 年代の名鉄風景」写真展～9.10 |
| 10.01 | 秋季特別展「犬山線開通 100 周年記念展」～11.30 |
| 2013(H25)03.24 | 春季特別展「名鉄沿線のいま・むかし」～5.31 |
| 7.16 | 夏季特別展「常滑線全通 100 周年記念展」～9.13 |
| 8.25 | 西部支配人室「ハロー・マイ・レール」に協賛し特別開館 来館 310 名 |
| 10.06 | 川合公民館主催ファミリーウォークの見学コースとなり、470 名入館 |
| 10.10 | 秋季特別展「想いでの一宮線・岩倉支線写真展」～11.29 |
| 2014(H26)02.09 | 松永直幸退職 |
| 3.17 | 名鉄ホームページをリニューアル、資料館ページ上に過去の特別展を紹介する特別展示室を開設 |
| 3.23 | 春季特別展「津島線開通 100 周年記念展」～6.08 |
| 3.26 | OB 故神田功氏のご遺族より名鉄関係資料寄贈受入(整理中) |
| 6.08 | 開館 20 周年 を迎える |